

地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成16年度からすべての市立学校で学校評議員制度を導入し、学校外の評議員が学校運営に関し意見を述べ、校長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施しております。

また、平成19年6月の学校教育法、同年10月の学校教育法施行規則の改正により、学校評価に関しては、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられました。このことを受けて、各学校では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題について、その改善を図っております。

ここに、平成26年度の各学校における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」の取組の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校では、この報告書を参考にするとともに、学校・家庭・地域が連携・協力しながら、学校運営の改善に向けた取組を実施し、開かれた学校、保護者や地域から信頼される学校をめざします。

平成27年3月
奈良市教育委員会

- 平成26年度は268名に学校評議員として奈良市の学校運営に参画していただきました。

〔奈良市立学校数：小学校47校、中学校22校、高等学校1校〕

評議員の置かれている学校実数

小学校44校、中学校18校、小中学校2校、高等学校1校

(コミュニティ・スクールに指定している中学校2校と小学校1校については、学校評議員を任命せず、学校運営協議会がこの役割を担っています。)

* アンケート集計では、小中学校は中学校として集計しています。

内容

1、学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】	2
【設置されている学校評議員数】	2
【学校評議員の再任の割合】	3
【校長が学校評議員に求めた意見例】〔意見を求めた学校数の割合〕	3
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】	4
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】	4

2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】	5
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】	5
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】	6
【各学校が設定した重点的な目標（評価項目）】	6
【学校関係者評価の実施について】	7

3、学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】	8
【学校評価をすすめる上での課題】	9
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱える学校経営上の課題】	10
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱える学校経営上の課題の具体的解決策の例】	11

4、学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】	12
--	----

1、学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	本年度		備考 それぞれの項目は元経験者も含む
	人数	割合	
PTA関係	73人	27%	
民生関係	48人	18%	主任児童委員、児童委員
自治会関係	49人	18%	
教職経験者	20人	7%	
各種協議会	14人	5%	人権教育協議会、安全推進協議会など
学校支援	9人	3%	地域教育協議会、地域ボランティア
少年指導協議会関係	16人	6%	
地域活動関係	21人	8%	
社会福祉協議会関係	7人	3%	
公民館・施設長関係	5人	2%	
万年青年	0人	0%	
一般	6人	2%	

【設置されている学校評議員数】

学校評議員数	校種別の内訳（学校数）				合計
	小学校	中学校	小中学校	高等学校	
5人	10校	6校		1校	17校
4人	28校	9校	2校		39校
3人	6校	3校			9校
2人					0校
合計(学校数)	44校	18校	2校	1校	65校
総人数	180名	75名	8名	5名	268名

【学校評議員の再任の割合】

再任割合	小学校	中学校	小中学校	高等学校	合計
人数(人)	48人	29人	4人	4人	85人
割合(%)	27%	39%	50%	80%	32%

【校長が学校評議員に求めた意見例】 【意見を求めた学校数の割合】

「地域の連携・協力に関すること」

〔小:96% 中高:78% 全体:90%〕

- ・地域で決める学校予算・放課後子ども教室等について
- ・学校行事、学習活動、環境整備等の取組と参加協力について
- ・地域の教育力の発掘について
- ・コミュニティスクールの展開について
- ・地域支援ボランティアの活用について
- ・地域人材を活用した学習について

「学校の目標としていることに関すること」

〔小:81% 中高:74% 全体:79%〕

- ・めざす子ども像について
- ・学校ビジョン、学校教育目標、学校経営方針について
- ・児童生徒の実際と教育目標について
- ・目標達成に向けての努力と達成度について
- ・児童生徒につけたい力について
- ・国際理解教育の具体的な取組について

「学校に対する評価に関すること」

〔小:83% 中高:57% 全体:74%〕

- ・学校評価アンケートの結果、分析、考察について
- ・学校評価の外部評価について
- ・評価の説明と実態把握について

「児童生徒の安全に関すること」

〔小:92% 中高:57% 全体:80%〕

- ・安全ネットワーク、避難訓練について
- ・登下校、校内の安全について
- ・避難訓練、防犯ブザー、携帯所有率の調査について
- ・安全教育の充実について

以下、「教育課程・教育内容に関すること」(全体 64%)、「生徒指導に関すること」(全体:59%)、「学校施設・設備に関すること」(全体:54%)と続いています。

【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができている。	56%	60%	62%	69%	52%
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能しているとはいえない。あるいは共有できていない。	44%	40%	38%	31%	48%

【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】

- ・ 放課後子ども教室における教室数を増加させることができた。
- ・ 登校指導と一緒に関わっていただけるようになった。
- ・ クラブ活動や家庭科の自習、生活科のゲストティーチャーとして地域の方に来ていただくことができた。
- ・ 地域連携の中で地域の方たちの意見を学校の取組で反映することができた。
- ・ 放課後子ども教室の一環として、地域の自主防災への参加を進め、学校も積極的に協力することができた。
- ・ 地域と連携した安全への取組によって、今まで取り組んでいなかった自治会に安全パトロールに参加していただくことができた。
- ・ 学校行事、地域イベント、参観等、積極的に参加していただくことができた。
- ・ 次年度の年間計画にゲストティーチャー招聘の事業を組み入れた。
- ・ 登下校時の見守り活動について、会議をもっていただいた。
- ・ 食物アレルギーについての研修を実施した。
- ・ コーディネーターが地域にチラシを回覧していただき、図書ボランティア等の活動を増やしている。
- ・ 職場体験の受け入れを、すべて校区内の事業所でお願いすることができた。
- ・ 地域学習、学校環境整備においてボランティアで活動していただくことができた。
- ・ 子ども安全の日やマラソン大会での児童の見守り活動に協力していただいた。

各学校で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校づくりにつなげるかが、さらなる教育改善につながります。P D C AサイクルのAは学校を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや地域の方々と共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りや学校ホームページなどでの公開も、非常に有効な方法となります。

2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
学校評価を進める校内委員会等を組織している。	75%	79%	88%	87%	91%
全教職員参加のもとで学校評価を進めている。	89%	94%	93%	91%	96%

[平成 26 年度内訳(校内委員会等の組織している。／全教職員が参加している。)]

小：89%/98% 中高：96%/91%

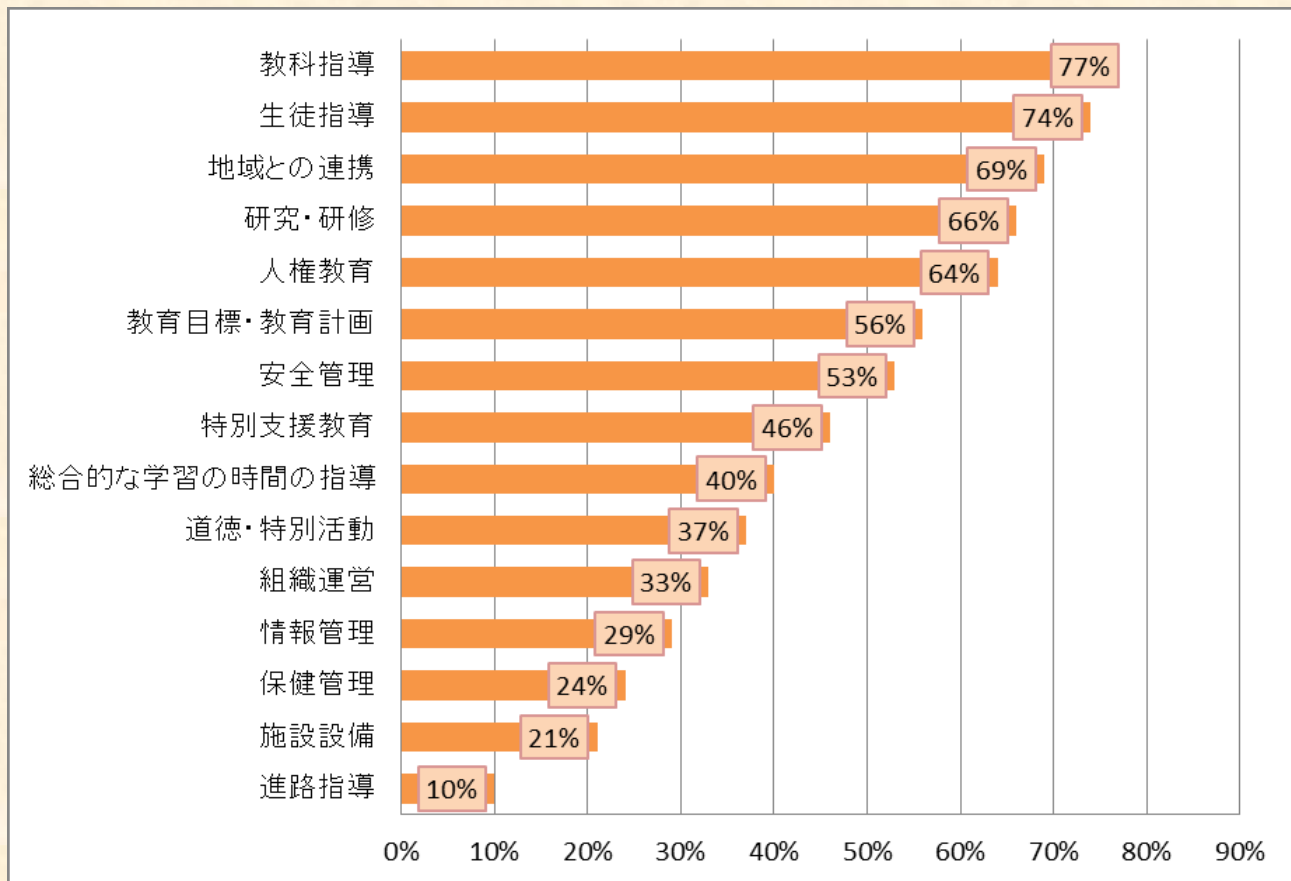
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	小学校	中高等学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	87%	78%	85%
学校評価関係教職員で行っている。	11%	22%	14%
主に担当者が行っている。	2%	0%	1%

【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】

外部アンケートの実施割合	小学校	中学校	全体
年度末に1回実施	26%	30%	27%
年度末以外に1回実施	68%	61%	66%
年2回（1学期末、2学期末）	0%	9%	3%
その他（行事ごと等）	6%	0%	4%

【各学校が設定した重点的な目標（評価項目）】

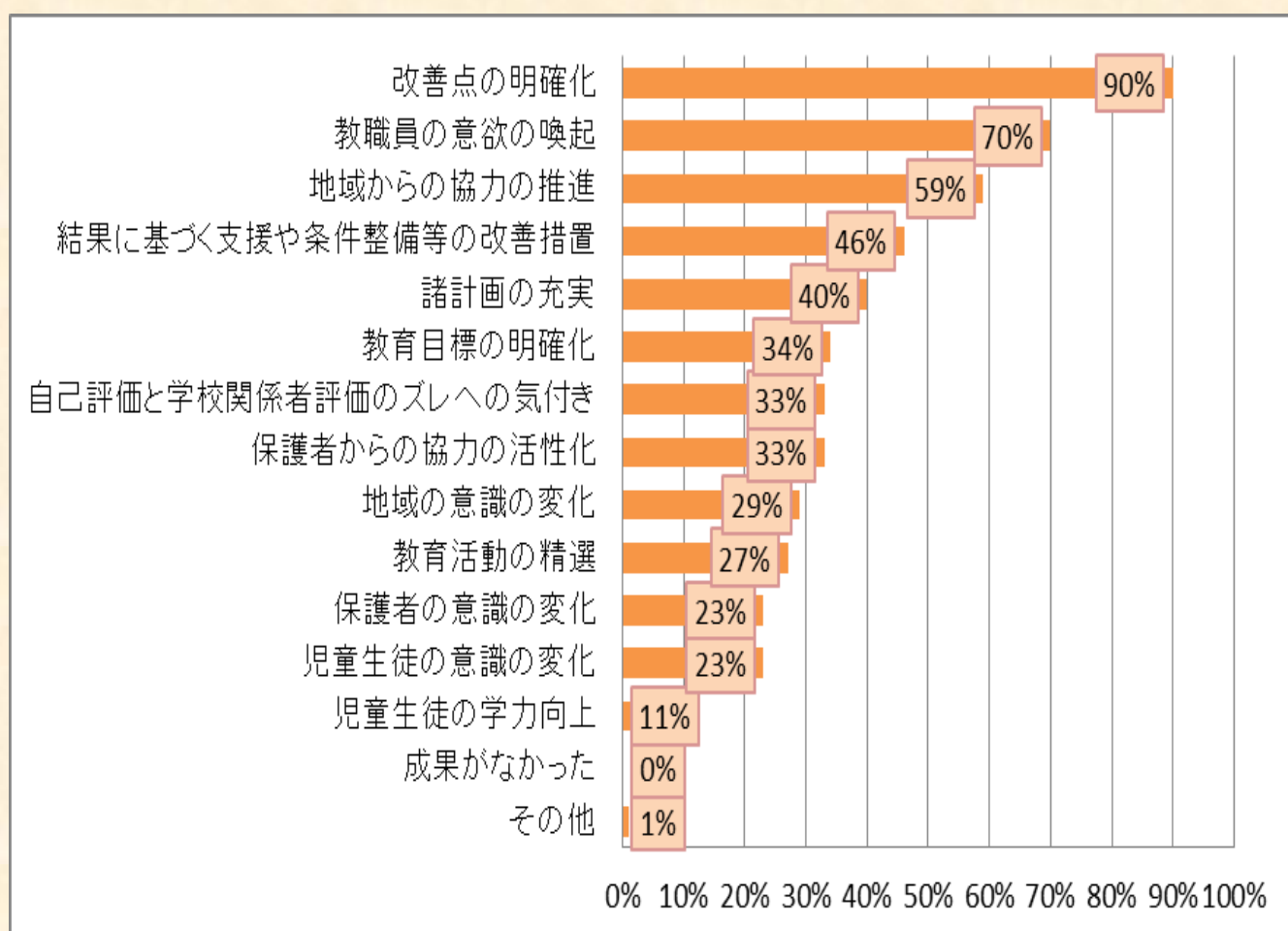


【学校関係者評価の実施について】

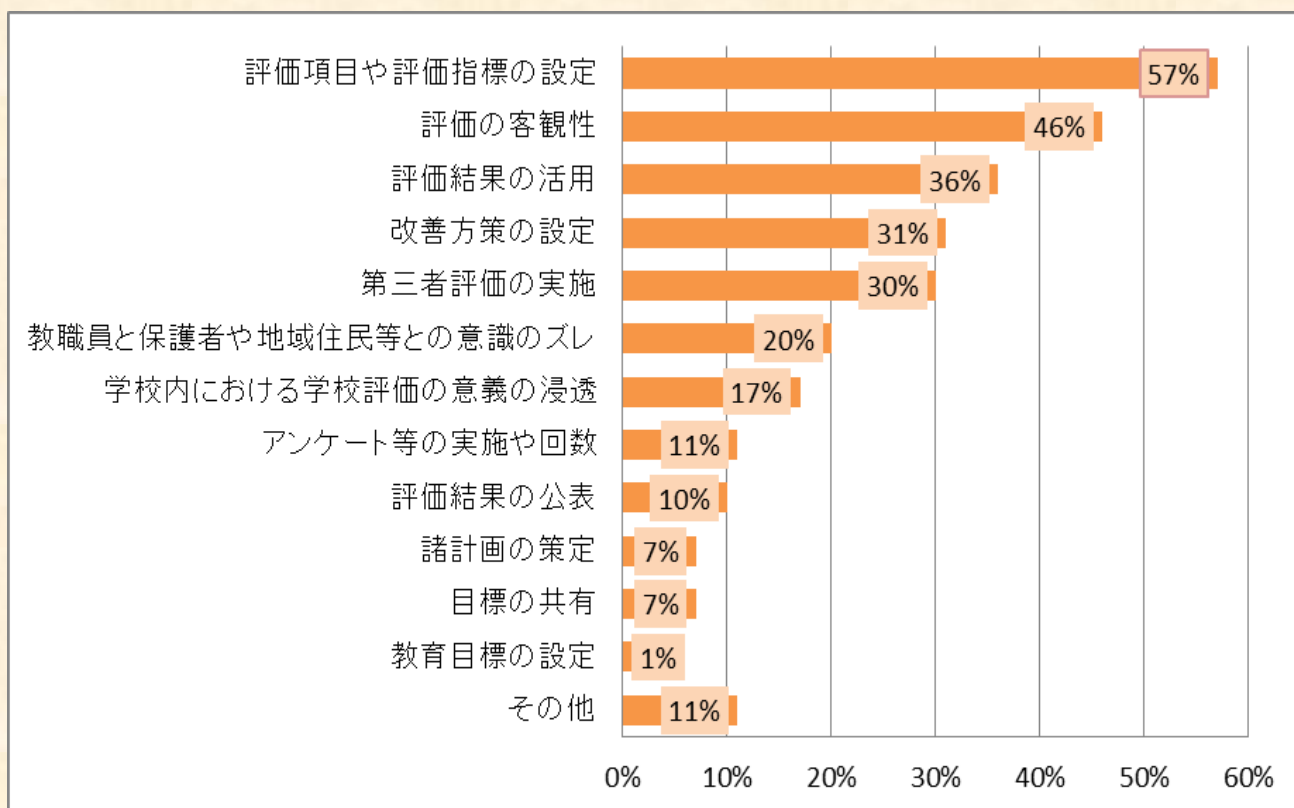
学校関係者評価の実施について	小学校	中学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	72%	61%	69%
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	77%	65%	73%
評価はアンケート形式で回答を求めている。	53%	44%	50%
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	11%	13%	11%

3、学校評価の成果と課題

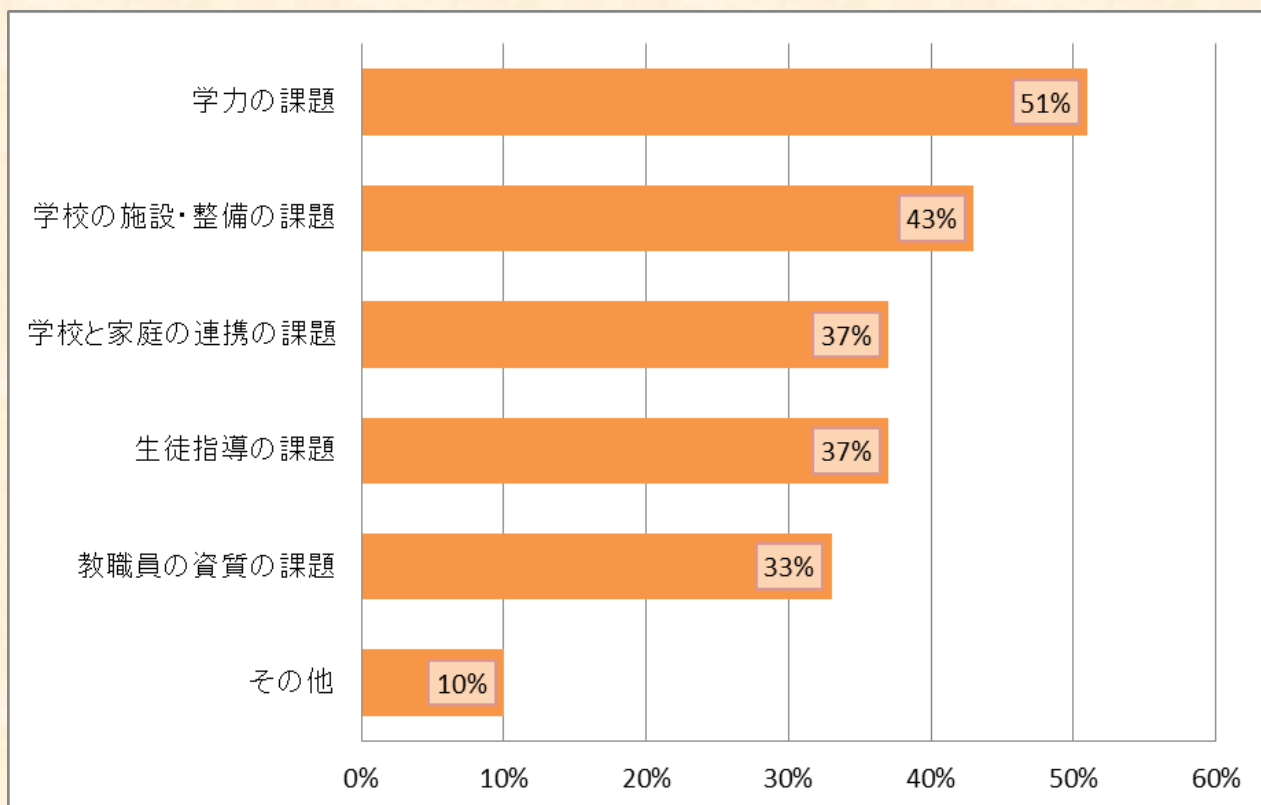
【学校評価を行ったことで得られた成果】



【学校評価をすすめる上での課題】



【学校評価結果から指摘できる、学校が抱える学校経営上の課題】



【学校評価結果から指摘できる、学校が抱える学校経営上の課題の具体的解決策の例】

〔学校と家庭の連携に関すること〕

- ・ 学校の教育方針を話し合い、互いの思いを受け止めあう中で、信頼関係を築き、一緒に子育てをする体制を整える。
- ・ 参観・懇談の機会に、保護者と共に課題解決の方策を話し合ったり、学級だより等により保護者の意識化を図ったりする。
- ・ 継続した挨拶運動を続け、保護者・PTA・地域にも協力を呼びかける。
- ・ 学校が重点的に取り組んでいる教育活動を、保護者に評価していただくアンケートの設定を工夫する。

〔生徒指導に関すること〕

- ・ 子どもの生活背景に厳しさがあり、家庭支援の必要性和保護者の理解・協力を得るべく情報発信と啓発活動を行う。
- ・ 児童の主体的な活動を通しての規範意識の定着を図る。
- ・ 教育相談を所管する組織の立ち上げと教育相談の充実を図る。
- ・ 保護者との連携を密に図るとともに、より迅速・的確に対応する。
- ・ 規範意識を高めるための講演会を開催する。
- ・ 日々の教育活動において、危機意識をもちながら実践を行う。
- ・ 職員朝礼等を通して、常に学校全体での情報共有を図る。

〔学力に関すること〕

- ・ 課題を明確にし、その課題を克服するための学習内容や支援体制を整えていく。
- ・ 基礎学力を向上させるため、継続的に取り組む。
- ・ 低学力傾向の児童に対しての補習を行う。
- ・ 習熟度に二極化傾向が見られるため、課題を共通理解し、基礎学力の定着に向けた支援方法などについて考える。
- ・ 家庭と連携し、学習意欲を高める方策を立て、基礎学力の定着への取り組みを具体化し、実践する。
- ・ 小中一貫教育の充実による基礎学力の向上と定着を図る。
- ・ 学力・学習状況調査や学力調査の結果分析に基づき、学習意欲の向上、授業スキルの向上を目指す。
- ・ カリキュラムを充実させ、キャリア教育の視点から、生徒に目的意識をもたせるような指導を行う。
- ・ 家庭教育力の向上を目指し、啓発活動を強化する。

〔施設・整備に関すること〕

- ・ 児童の安全を第一に考え、優先課題によって市・地域・保護者の協力を得る。
- ・ 施設の点検を定期的に行い、悪い箇所があれば速やかに整備する。
- ・ 改築に向けた取組と改築されない校舎の有効的な活用に対する計画をつくる。
- ・ 施設の点検の強化や速やかな修繕を行う。

4、学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- ・ 小中一貫教育や地域教育協議会の具体的な取組や内容について、保護者への啓発を図るため、ホームページや校内掲示板の工夫を行う。
- ・ 学力向上については改善の方向にあるが、今後も継続・発展させていく必要がある。また、保護者への情報発信についても、ホームページが効果的に作用しているが、さらに継続・発展していきたい。
- ・ 生徒指導事案や低学力傾向の改善に対して、粘り強く今取り組んでいるスタイルを進めていくことが、今後の改善に生きると考えている。
- ・ 小中一貫教育に向け、世界遺産・地域遺産学習の教材見直しをする。発表会にたくさん来ていただき、感想や意見をいただいている。今後も児童の力を高め、地域を誇りに思う児童を育てるため、教職員も力をつけるために研修を行う。英会話科の教材開発をする。中学校との交流による教員研修の強化を図る。
- ・ いじめ問題や友だちとのトラブルに対する保護者の心配に対して、学校や学級を理解していただき協力いただけるように、学校だより・学級だより・家庭との連絡、懇談会の充実などを推し進め、見直しではなくビジョン推進の強化を考えている。
- ・ キャリア教育の視点、アクティブ・ラーニングへの取組を明確にしたい。
- ・ 小中一貫教育の目標及び具体的な取組みの内容が学校ビジョンとしっかりリンクさせることにより、教員の負担感を軽減をしながら、本校の教育を推進する。
- ・ 教員の資質向上のためにも、教員用の学校評価の項目内容の見直し及び定量評価の導入を図りたい。
- ・ 小中一貫教育の推進を図りながら、学力向上について、学習への取組みの姿勢など小中で共有し、強化を図る。
- ・ ビジョンで示す目標について、具体的な数値で現れる成果と、教員が捉える子どもの姿を結び付けて、教育活動の成果を示す。
- ・ 学校が取り組んでいることや学校の熱意と努力の姿を、ホームページや学校便り等でしっかりと発信する。
- ・ 小規模校の特性を生かし、きめ細かな学習指導・生徒指導を行うとともに、さらに自ら考え判断し行動できる児童を育てる。地域の学校として、ふるさと学習での学びをさらに強化し、郷土愛に満ちた児童を育てる。そのことがグローバル社会にも通用する人材を育成することになる。
- ・ コンピュータを活用した授業がまだまだ定着していない。ICT 機器活用による授業づくりにチャレンジすることで授業改善に取り組みたい。